

第 2 回裾野市観光基本計画策定委員会 会議録

【日時】 平成 22 年 10 月 27 日（水） 18:00～20:00

【場所】 裾野市役所 4 階 402 会議室

【出席者】 <委員>

- 庄司 政史（株式会社時之栖／取締役専務 ・ 裾野市観光協会／理事）
- 道本 晃一（株式会社フジヤマリゾート／取締役社長 ・ 裾野市観光協会／理事）
- 中川 敏夫（株式会社三ツ輪交通自動車／代表取締役社長 ・ 裾野市観光協会／理事）
- 岩田 翼（有限会社ワン・テン／代表取締役 ・ 裾野市観光協会／副会長）
- 羽田 耕治（横浜商科大学商学部貿易・観光学科教授）
- 石井 尚子（公募）
- 長澤 志郎（公募）
- 杉山 共実男（南駿農業協同組合／北部地区本部長）

【欠席者】 <委員>

- 木村 繁（有限会社木村商店／代表取締役 ・ 裾野市観光協会／顧問）
- 濱中 幸（富士サファリパーク／取締役園長 ・ 裾野市観光協会／理事）

【次第】

1. 開会
2. 議事
 - (1) 市観光基本計画に関する市民意識調査結果について
 - (2) 市内観光客ヒアリング調査結果について
 - (3) 調査結果から得られた問題点と課題
 - (4) 自由討議
3. その他
4. 閉会

【議事詳細】

1. 開会

産業建設部 勝又壽彦部長

市民意識調査では、観光を担当する行政に対して非常に辛い意見や要望・回答が多かったの
で真摯に受け止め、これからの計画や観光行政の取り組みに活かさなければいけないと考え
ている。

2. 議事

(1)市観光基本計画に関する市民意識調査結果について

(2)市内観光客ヒアリング調査結果について

(3)調査結果から得られた問題点と課題

事務局であるジャパンインターナショナル総合研究所より、上記3項目について説明。

《市民意識調査》

【アンケート内容（設問：計15問）】

- ・ 回答者について
- ・ 裾野市の観光について
- ・ 観光振興の方向性について

【調査期間】

8月

【調査人数・回収率】

調査人数：1,000人

回収率：490/1,000件 49%

【性別・年齢・職業】

性別：男性77.9% 女性19%

年齢：50歳以上の高齢者の返信が多い

職業：会社員約40% 家事専業・無職約30%

【各問に対する課題】

■ 裾野市観光の印象（問5）

⇒ 課題：「地元名産品の充実」「宿泊客の増加」「PR・情報発信の強化」「市内交通の充
実」「観光案内等のサービスの充実」「食の魅力アップ」。

■ 紹介したい観光スポット（問 6）

⇒ 課題：市内にはその他にも様々な観光資源があり、これらの観光資源を積極的に紹介すること、いかに紹介できるような魅力を備えることが可能となるか。

■ 紹介したいイベント・祭（問 7）

⇒ 課題：市内にはその他にも様々なイベント・祭があり、それらの認知度をあげ、より多くの市民が集うこと。

■ 紹介したい食材・食べ物（問 8）

⇒ 課題：裾野市の食材・食べ物の認知度はまだまだ低く、広く市民に周知させること。

■ この 1 年間に観光として訪れた観光スポット・施設（問 9）

⇒ 課題：市内にある観光スポットも一部の施設を除き、利用者はまだまだ少ない。多くの市民の利用を促すこと。また、利用者に年配者が多いことから、若者が好んで利用できる施設の魅力づくり。

■ この 1 年間に参加したイベント・祭（問 10）

⇒ 課題：市内最大のイベントである「すその夏まつり」であっても 3 人に 1 人の参加に過ぎず、その他のイベントの参加が少ないので、市民が一体となって参加できるイベント・祭の開催。

■ 観光に対してできること（問 11・12）

⇒ 課題：裾野市民が積極的に自分のまちの観光を誇りに思い、市外・県外の人に紹介できるようにすることが必要で、そのための魅力づくりを推進し、いかに裾野市の観光を PR できるようになるか。

■ 目指すべき観光の方向（問 13）

⇒ 課題：目指すべき方向性としては、交通アクセスの良さを利用して、自然や街並み景観、里山歩きや水辺歩きのようなハイキング等ができる日帰り観光地というイメージが想定されるので、これらのニーズに対応できる受け入れ態勢の確立。

■ 観光が地域振興に与える効果（問 14）

⇒ 課題：市民にとっては、自分の住んでいるまちが有名になり、より暮らしやすい環境で生活でき、地域も活性化するという期待が込められているので、そのための具体的施策をいかに進めるか。

【自由回答で寄せられた意見に対する問題点・課題】

■ 観光資源について

- ⇒ ・ 通過地点ではなく目的地としての観光スポットの開発
- ・ 新しい観光スポットとして「道の駅」の設置
- ・ 富士山を意識した自然環境を楽しむ滞在型観光地を目指す
- ・ 周辺都市の観光スポットとリンクして全体で集客力を高める
- ・ 市内ロケ地採用による裾野市 PR の検討(フィルムコミッション)

■ 祭・イベント

- ⇒ ・ 既存祭・イベントの周知、活性化
- ・ 裾野独自のイベントの開催

■ 自然環境

- ⇒ ・ 自然環境の保護・保全の促進
- ・ 自然を活用した滞在型観光地の推進

■ 食の魅力、物産・名産品

- ⇒ ・ 魅力ある物産・名産品の開発
- ・ 既存名産品の魅力向上と地元 PR、販売場所の確保

■ 集客施設

- ⇒ ・ 市民が楽しめるショッピングゾーンの設置
- ・ 観光客に地元の名産を紹介・販売できる施設の設置(駅前お土産店、道の駅等)

■ 農業・製造業

- ⇒ ・ 農業体験の出来る観光の推進(グリーンツーリズム)
- ・ 子どもだけではなく大人も興味をもつ工場見学の推進

■ 宿泊施設

- ⇒ ・ 日帰り観光客が大半をしめる中での、滞在期間の延長と宿泊につなげる取り組み

■ 街の美観

- ⇒ ・ 市民参加の美化運動の推進

■ 観光案内板

- ⇒ ・ 道に迷わず到着できるわかりやすい観光客誘導の案内板の設置

■ PR・情報発信

- ⇒ ・ 市内観光地を知らない市民に対する PR、利用促進
- ・ インターネット検索でアクセスのしやすい仕組みづくり
- ・ 観光客に直接アピールできる「道の駅」での観光 PR

■ 駅周辺的环境整備

- ⇒ ・ 駅舎の改築、駅前通りの整備・活性化、駅東側の利用計画

■ 交通アクセス

- ⇒ ・ 市内主要道路の拡幅、整備
- ・ 交通渋滞の解決策の実施

■ 観光施策への要望

- ⇒ ・ 観光都市としての方向づけがされておらず、今後いかに観光行政を推進していくか

≪観光客ヒアリング調査≫

【調査場所・件数】

- ・ ぐりんぱ
 - ・ 大野路(キャンプ場、食事処、宿泊)
 - ・ ルートイン裾野インター
 - ・ 十里木高原駐車場
 - ・ ヘルシーパーク裾野
- 各 10 件

【調査日】

9/18(土)、9/19(日)

【調査内容】

- ・ 住まい
- ・ 年代、性別
- ・ グループ(家族・友人等)
- ・ 人数(うち子供の人数)
- ・ 旅行形態
- ・ 交通手段
- ・ 周辺施設(御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場高原リゾート時之栖、富士スピードウェイ、富士山こどもの国)の利用状況

【ヒアリング結果から得られた問題点・課題】

- 市内観光スポット・イベントの PR
 - ⇒ ・ PR を推進し、市内観光スポット、イベントの認知度を高めること
- インターネット、ホームページによる情報収集手段の改善
 - ⇒ ・ 認知度が高いサファリパーク等の人気スポットから市内の観光スポットにアクセスできるような仕組みづくり
- 市内観光スポット案内標識の増設
 - ⇒ ・ 初めての訪問者が安心して訪問先にたどり着くよう、きめ細かく標識を設置すべき
- 周辺観光スポットを含めた観光ルートの提案
 - ⇒ ・ サファリパークのような認知度の高い観光スポットと認知度の低い市内観光スポットとの周遊コースの企画等
- 裾野インターチェンジの下車の促進
 - ⇒ ・ 道路の整備、案内板の表示、裾野市の玄関口として受け入れ態勢の確保等によって、裾野インター下車の観光客を増やすための方策

■ 魅力ある観光施設の設置(道の駅などの検討)

- ⇒ ・ 食事ができる場所、休憩できる場所等の設置
・ 「道の駅」のような魅力的な観光施設の設置

■ 市内観光の移動手段の確保

- ⇒ ・ 市内観光をする方は高齢者が多いことから、車ではなく周遊バス等を使った市内移動手段を確保すること

(4)自由討議

今回出席の8名の委員がそれぞれ、調査結果や問題点・課題を踏まえて、意見を述べた。

【羽田委員】

- ・ 裾野市の観光行政、観光振興はこれからだと思うので、それを考えていく上で今回の意識調査等から問題点、課題が明らかになったと解釈すれば良い。
- ・ 実際に裾野市内を回ると、観光スポットが多い所で幅広い客層を狙えるという印象。
- ・ 裾野市内には非常に幅広い魅力・資源・素材があるが、それが散在しているので、それをどう編集・整理していくか。
- ・ 観光の柱・テーマになるものがいくつもあるのだから、1つ2つに限定せず、切り口を変えて色々なマーケットに訴えていくことを考えるべき。
- ・ 散在している性格の異なる観光スポットをどう連携させるか(モデルコース等の提案)。
- ・ マップや案内標識を改善すべき。
- ・ 観光ガイドの育成をどうしていくのかということ。
- ・ 工場見学等の学びの観光、産業観光を促進していく。
- ・ 観光を通して美しい街づくりをしていくということで、市民意識・気運・取り組みをこの観光基本計画に打ち出すべき。

【中川委員】

- ・ ヘルシーパークや裾野インターを中心にした大きな観光地の形成。
- ・ 自然環境を大切に、ハイキングコース等の整備をすることで、歩きながら裾野の自然と歴史を学べるものを作ってはどうか。
- ・ 市内には本にも記載されている仏像等があるが、実際に行ってみても見れない状況なので、その点を改善できないか。
- ・ ゴミのない街づくり、川づくり。
- ・ 裾野の新しい墓地から見える富士山は素晴らしいので、そこを富士霊園のような公園墓地のようにできれば観光スポットになるのではないか。

【杉山委員】

- ・ 今ある施設を強化すること(案内板の設置、モデルコースの設定、ハイキング等)で、もっと裾野市を PR できるような観光都市ができるのではないかな。
- ・ 道の駅のような、休憩ができて、マップや案内標識があつて、行き当たりばったりでも裾野の観光を楽しんでもらえるような拠点づくりが必要ではないかな。

【長澤委員】

- ・ 裾野の観光は、歴史や健康等様々な要素が含まれているのだから、それを利用しない手は無い。
- ・ 市民に観光スポットを全て理解させるのは難しいので、せめてこの委員だけはアンケートに出ている所を全部回ることが原点ではないかな。
- ・ 点で終わってしまっている市内観光スポットを点から線に切り替えて、観光ルート等を作るべきではないかな。
- ・ 観光スポットを歩いて回った際にトイレが無いことが非常に困るので、何とか整備できないかな。
- ・ 年齢で分けした観光ルートの仕組みづくり。
- ・ 地区別の観光案内小冊子があるが、古いものがあるので、今ある出版物の見直しが必要ではないかな。

【石井委員】

- ・ 新しいものを作るのではなく、今ある観光スポットを綺麗にしたり掃除したり花を植えたりすることで、行きたいと思えるような場所にする整備をまずはすべきではないかな。
- ・ 観光ルートの整備をし、観光客を導くものがあると良いのではないかな。
- ・ 裾野を PR するために、ホームページを改訂すると良い。
- ・ 今既存である観光スポットのスペースを借りて、裾野コーナーのような場所を作り、パンフレットを置いたり、お土産を買えるようにして裾野の PR をしてはどうか。
- ・ 裾野市の企業(トヨタ、関東自動車、キャノン、矢崎等)の社員食堂や売店に裾野市の名産やパンフレット等を置かせてもらってはどうか。
- ・ 裾野水ギョーザが高いので、もっと市民が手を出しやすい金額や量を考えてもらえないかな。

【岩田委員】

- ・ 水ギョーザの開発から販売に至るまでの経緯と現状価格を安くできない理由等についての説明。
- ・ 過去様々な問題に取り組もうという気運はあったが、予算等様々な問題から取り組めなかったため、この観光基本計画に非常に期待している。
- ・ 様々な問題に対して裾野市の戦略的なものが見えてこない点、皆色々な想いがあるがそれぞれがバラバラに行動しているので大きなものにならない点、それを 1 つにまとめることが必要ではないか。
- ・ この観光基本計画が策定されればガイドに沿って行政も動くので、観光協会もやり易くなるのではないかと思う。

【道本委員】

- ・ 情報発信ができるネットや地域に来た時に寄れる所やパンフレットを貰える場所が必要ではないか。
- ・ 観光スポットに行くのに分かり易い案内板等の整備が必要ではないか。
- ・ 観光スポットを綺麗にすること、整備することを考える必要があるのではないか。
- ・ 色々なお客様に対応できる施設があるので、テーマ性を持って示し、情報発信していくべきではないか。
- ・ この基本計画が 10 年 20 年とはもたないと思うので、5 年に 1 回程度見直すべきだと思う。そのため、5 年間で見据えた計画で方向性を考え、まず今ある資源等の整備や情報発信をすることが大事ではないか。
- ・ 夏まつりや阿波おどり大会に行く市民が多く、市民には定着しているという印象を受けたので、これをもっと広めることで他の観光スポットに来てもらえるようになるのではないか。
- ・ 水ギョーザはまだ市民にも定着していないので、定着させるためには、値段が高いという意見があるなら安くするとか、お祭など何かの機会に必ず水ギョーザが出てくるような仕掛けを考える必要があるのではないか。

《委員の皆さんからの意見が多かった「道の駅」について》

【産業建設部長】

以前から道の駅をという話はある、諦めてはいないよう。財政状況や、道の駅を造るには条件があるので、段階を踏んでいかなければいけない。

≪自由討議のまとめ≫

【庄司副委員長】

- ・ 情報発信の拠点が無いということが課題。
- ・ 特徴を特に特定する必要はなく、いくつかの魅力があっても良く、様々な層に訴えかけるような観光を目指す。
(裾野市は、富士山の魅力だけではなく、さまざまな層に訴える魅力がある。)

8. その他

【中川委員】

青年会議所が今年 40 周年を迎え、記念事業として「富士山 1 周駅伝」を考えているので、その事業がもし実現する際にはバックアップして頂きたいという話があった。

【羽田委員】

「地域観光マーケティング戦略シート」の審査結果について、中部観光まちづくりアドバイザー一会議の座長でもある羽田委員より裾野市に対するアドバイス等の説明があった。

点から線へ、線から面へ 1 つ 1 つの素材をきっちり結び付けて情報発信していくことが大事であるということ。

【庄司副委員長】

今日の調査結果や委員皆さんの意見を踏まえ、次回に繋げ、もっと突っ込んだ議論、もしくは明確な位置付け、方向付けができるようにしていかなければならない。

9. 閉会

岩田翼委員

委員の皆さんの活発な意見を聞き、観光基本計画とはまた別の立場としても非常に良い勉強をさせて頂いていると感じている。